

小松電機産業(松江市) 小松昭夫社長



「社業を通じていかに世の中に喜びを広げることが大切」と説く小松社長(松江市の小松電機産業で)

工業高校を卒業した後、地元の農機具製造会社に就職し

経済面との連動企画「会社―東西南北」に今回登場するのは、日本で初めてビニール製のシャッターを開発した小松電機産業(松江市)。近年、携帯電話を使った上下水道制御システムを構築、環境に配慮した商品づくりも進めており、小松昭夫社長(65)に、会社の理念や開発をめぐるエピソードを聞いた。

(聞き手・佐藤祐理)

工夫ビニール製シャッター

たものの、数年後に会社が倒産。大阪の商社に再就職した後、2年で松江に帰郷して、自宅の納屋で農業用ポンプなどの修理を引き受ける仕事を始めた。

1980年代初め、地元の農機具メーカーから、工場に防寒用シャッターを作ってほしいとの依頼があった。条件は、冷暖房した室内の空気が逃げないよう、すばやく開閉ができて、安価であること。

シャッターはスチール製が主流だったが、ビニールシートで作ったほうが、と85年には、高速シートシャッター「門番」を開発。開閉速度はスチール製の約20倍で、1秒間に2層。センサーを取り付け、人や運搬機が近づけば自動的に開閉する。防じん、防虫効果が高まって、これまで12万台を販売することができた。

6日経済面からの続き

を開発した。重いスチール製より開け閉めしやすく、光を通すため、閉めても室内が明るい。保温効果も高くて、省エネにつながることから、全国で注目された。

会社 東西南北 * 中国

メモ

1973年、小松社長が、前身の小松産業を創業。主な製品はシートシャッターで、国内市場占有率は現在、約3割に。環境に対する企業理念が似た韓国・東宇技研(京畿道安城市)に製造技術や設計図面を無償提供し、東南アジアなどにも販路を伸ばす。2008年度の売り上げは約34億3600万円。従業員91人。